

周南の近代を 彩った人々たち

明治以降大きく発展を遂げた日本。周南市も例外ではなく、現在の姿は多くの人たちの活躍によって築かれました。その中で忘れ得ぬ人を紹介します。

今回は、近代文学界に足跡を残した文学者の中から、文芸雑誌「明星」を創刊するなど、浪漫主義文学を推進した歌人の与謝野鉄幹と、周南市出身で故郷を舞台にした作品を多く発表した、青木健作の2人を取り上げます。

2014年

会期

9月18日(木)～9月28日(日)

9月22日(月)休館 9:30～17:00(入館は16:30まで)

会場

周南市美術博物館 展示室1

観覧無料

ギャラリートーク

日時

9月21日(日)、23日(火・祝)、27日(土)

いずれも14:00～

ご希望の方は展示室にお集まりください。

与謝野鉄幹 (よさの てっかん)

明治6年(1873)～昭和10年(1935)

京都府愛宕郡岡崎村(現京都市左京区岡崎)生まれ。歌人。明治32年(1899)東京新詩社を設立し、翌明治33年に文芸雑誌「明星」を創刊、また与謝野晶子の『みだれ髪』を発刊するなど浪漫主義的な文学作品を送り出した。明治22年(1889)から25年(1892)にかけて徳山の私立白蓮女学校(私立徳山女学校)で国語、漢文の教師をつとめた。



与謝野鉄幹歌碑(太華山山頂付近)

青木健作 (あおき けんさく)

明治16年(1883)～昭和39年(1964)

都濃郡富田村(現周南市河内町)に生まれる。旧制山口中学、山口高等学校、東京帝国大学哲学科を卒業、千葉県や東京で中学校教師をつとめた。若い頃から文学に深い関心を持ち、26歳で処女作「鼯鼠」を発表。翌年発表した「虻」は夏目漱石から賞賛された。故郷を舞台とした作品を多く残している。



(写真提供 / 青木健作顕彰の会)



青木健作文学碑(永源山公園)

主催・問合せ

周南市美術博物館

Shunan City Museum of Art and History

山口県周南市花島町10-16

TEL (0834) 22-8880

<http://s-bunka.jp/bihaku/>